

会議等結果報告書			
会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	131
		決裁期日	平成27年7月22日
名 称	第2回上富良野町協働のまちづくり推進委員会		
日 時	平成27年7月13日（月） 午後7時00分～午後8時50分		
場 所	保健福祉総合センター2階 研修室		
出席者	協働のまちづくり推進委員13人（別紙名簿のとおり） 事務局：町民生活課 鈴木課長、自治推進班 谷口主幹、田中主事 合計16名		

[司会：事務局 町民生活課長]

◎ 森本委員より改選に伴うあいさつ

森本委員： 文化連盟の役員改選に伴い、本会議より委員として出席することになりました。事前にいただいた資料を見ますと、高齢化が問題視されている内容もあり、文化連盟でも同じように高齢化が進み悩んでいるところです。委員のみなさまと共に、まちづくりのために少しでも力になれるよう努力したいと思っておりますので、よろしくお願いします。

◎ 会長あいさつ

持安会長： 森本委員からいただいたあいさつに、高齢化社会のお話がありました。間違いなく高齢化は進んでいますが、高齢者の方々のマンパワーを活用することも協働のまちづくりのひとつの手段と考えています。

平成26年度は、協働を推進する方策の評価について委員のみなさまから意見をいただき、今年度は検討項目を絞り込み、協働を推進するための取組みについて意見をいただき協議を進めているところです。前会議からグループ討議を行い、活発な意見をいただいております。委員のみなさまには、各団体から代表として出席いただいておりますので、この会議で話し合われたことを所属団体に持ち帰っていただき、さらに団体内で協議された内容を本推進委員会で発表していただくことで、まちづくりの基礎をつくることに繋がると考えています。本日は、「町民活動団体」の分野で協働を推進するための取組みについて協議したいと思いますのでよろしくお願いします。

[進行：持安会長]

議 題

1 「協働を推進する方策」の取組みについて

○第1回推進委員会で出された「協働を推進する方策」の更なる取組に向けた検討内容の要点について事務局（谷口主幹）から説明。

○協働を推進する方策の検討項目…資料1について事務局（谷口主幹）から説明。

本日の検討項目は、「2-3 町民活動団体等のネットワークづくりの推進」に関して、委員会の意見から「異種団体間の交流機会を促進する」ことをお願いする。

○資料2「団体の取組事例」、資料3「まちづくり活動助成事業補助金(本事業を活用した団体)」、
当日配布資料「定期利用活動団体一覧」について事務局(田中主事)から説明。

■グループ討議

「協働を推進する方策」の検討項目

分野 [町民活動団体]

項目 2-3 町民活動団体等のネットワークづくりの推進

委員会意見：異種団体間の新陳代謝を促進する

【持安会長グループで話された意見】

○団体役員の新陳代謝を図る(時期の体制づくり、リーダーの育成など)

- ・団体のリーダーには、長い積み重ねの中で団体をまとめている方もいる。輪番制なども含め色々
と組織の進め方はある。
- ・良いリーダーがいる団体は、長い年月の活動に繋がっている。
- ・リーダーになって欲しい人は、子育てや家庭との両立、経済的に働くなど忙しい人が多い。
- ・意欲のある人に担っていただくことが良いと思う。
- ・団体の活動を進める上で、資格の取得など活動資金も必要で、自己負担となっている。人を育
成するには資金も必要なので町の支援があれば良いと思う。
- ・活動を進める上においては達成感も大切で、大きな大会等に参加することを行っていて、リー
ダーの魅力も含めて組織や活動の継続が図られている。
- ・活動に取り組むきっかけが必要。その機会として講演会や研修会などが考えられ、そこでの気
付きが大切。

○異種団体間の情報交換等の交流機会の創出を図り連携を深める

- ・様々な団体があるなか、それらが交流する機会づくりは、行政が声掛け(場の設定)すること
が望ましい。
- ・行政が団体の活動情報をまとめることが良い。
- ・集まる上においてその目的が必要。それぞれ目的を持って参加し情報交換することで、健康づ
くりなど色々な活動につながるのではないかと。
- ・行政は団体の目的に応じて担当する課が分かれているが、縦割りでない対応が望まれる。
- ・集うきっかけとして、団体の代表が集まり話し合うことも良いのでは。その中で行政と団体の
役割等の話が出来れば良いし、行政には話を聞く耳(姿勢)を持って欲しい。
- ・講演会などの後に参加者同士の交流する機会を設けることも良い。上富良野人材育成アカデミ
ーは良い機会である。異業種の方が参加し色々な情報が得られる。
- ・話合いの場では、色々な話が積み上がり、町に提言する機会につながれば良いと思う。
- ・人材育成は産業振興課、町民生活課などが課題としており、組織横断的な連携した取組を期待
したい。
- ・話合いの場として、協働のまちづくり推進委員会も良い機会である。

○各種団体が集まり活動する場の検討(拠点施設、事務物品、人員配置など)

- ・集まる場は必要で、社会教育総合センターや保健福祉総合センターが主に利用されている。
社会教育総合センターの団体室は、社会教育団体が自由に利用でき、主に体育協会、文化連盟、

いしづえ大学等の団体が会合等で利用し、書庫も利用できる。

保健福祉総合センターのボランティア室は、都度利用申請が必要で、ボランティア団体が自由に使える状況にはない。書庫などの利用も出来ていない。福祉団体はかみんのフリースペースを会合等に利用している。

- ・団体の事務を行う上でコピーなどが気軽に利用出来れば負担の軽減につながる。(町の廃校に中古のコピー機がないか?)
- ・団体等が自由に使える会議室を設けるなら、コピー機等の管理面から人の配置があった方が良く、コピー機等は一定の料金負担があった方が良い。(運営費が課題)

【佐川副会長グループで話された意見】

○団体役員の新陳代謝を図る(時期の体制づくり、リーダーの育成など)

- ・役員に選任されるなら、「団体を抜ける」と言われ、新陳代謝を図ることができない現状である。
- ・商工、観光、農業、福祉等の異種間のネットワークづくりが必要である。組織を立ち上げることにより、組織を引っばるリーダーが育まれる。
- ・町が今後において重要としている事項を絞り込み、それをテーマにするとよい。

○異種団体間の情報交換等の交流機会の創出を図り連携を深める

- ・他市町村とのつながりはあっても、町内でのつながりが少ないと感じる。
- ・各団体同士で集まるには、きっかけがないと集まることはない。また、それぞれ目的を持って活動しているため、異種間で集まるためには共通の目的を決めたうえで集まるきっかけをつくる必要がある。各団体が参加しやすいテーマからスタートし、年度毎にテーマを変えていく等の方法で促進するとよい。
- ・町がきっかけをつくらなければ集まることは難しい。各団体に声掛けを行う等、町がきっかけをつくり、ネットワークをつくる場を設ける。数年後には、その場を仕切るリーダーが生まれ、町が関わらずとも自然に活動できる組織になる。

○各種団体が集まり活動する場の検討(拠点施設、事務物品、人員配置など)

- ・人材交流がないと集まる場がない。人材交流による活性化が必要である。
- ・施設を設置するにも、目的がないと集まる利点がない。目的を明確にし、拠点の意味をつくる必要がある。
- ・町内には、十分に組織化が可能な程の多くの団体がある。まずはきっかけづくりから。

2 その他

次回会議は、8月24日(月)午後7時から同会場で開催することを確認。

本会で話された内容は、資料にまとめ次回会議で確認を行う。

【会議録は決裁終了後、行政ホームページ、町政情報提供コーナーに公開】